

県内うどん店における新型コロナウイルス感染症の影響についての アンケート調査結果について

2022年9月28日

さぬきうどん研究会（香川大学農学部内）

会長 諏訪 輝生

副会長 多田 伸司

さぬきうどん研究会は、標題のアンケート調査を次の通り実施しましたので、その結果を発表いたします。

○ 調査の目的

新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」）により、県内のうどん店は大きな影響を受けていると思われることから、コロナによる来客数や売上などへの影響や対策の実態などを調査し、その結果を県庁内関係部署や県内うどん関係団体などに配布し参考としていただくとともに、本会としても讃岐うどんを巡る歴史的事実として会報「讃岐うどん」に掲載し、記録に残しておく。

○ 調査実施への協力

調査の実施に当たり、香川大学農学部、本場さぬきうどん協同組合、香川県製粉製麺協同組合、並びにかがわ農産物流通消費推進協議会の協力をいただいた。

○ 調査の対象店舗 546店

○ アンケート調査の内容 別紙のとおり

○ アンケート調査の実施方法

2022年6月下旬に、「さぬきの夢」技能グランプリの参加者募集の案内（郵送）に、アンケート調査用紙を同封していただき、本会あてに返送いただいた。

○ アンケートの回収店舗数・回収率

8月末までに71店から回答を得た。（回収率13.0%）。

○ アンケートの質問項目と集計結果

アンケートは、コロナ発生前の2019年の状況（以下、「発生前」、質問1～質問5）、コロナにより緊急事態宣言などが繰り返され行動の抑制が求められた2020年から2021年の状況（以下、「行動制限期」、質問6～質問9）、行動制限が緩和された2022年7月の状況（以下、「制限緩和期」、質問10～質問15）の3期に分けて質問した。

以下は、質問の項目毎の結果と全体のまとめである。

I 2019年（令和元年）当時の状況について

質問1 開店（創業）からの年数（無回答を除いた回答数：71）

1	9年以下	16.9%
2	10～19年	28.2%
3	20～29年	12.7%
4	30～49年	25.4%

5 50年以上 14.1%

6 開店前 2.8%

質問2 アルバイト、パートを含む従業員数（無回答を除いた回答数：70）

1 4人以下 44.3%

2 5～9人 34.3%

3 10～19人 14.3%

4 20人以上 7.1%

質問3 一日の平均来客数（無回答を除いた回答数：69）

1 49人以下 17.4%

2 50～99人 31.9%

3 100～199人 27.5%

4 200～299人 15.9%

5 300人以上 7.2%

質問4 県内客の比率（無回答を除いた回答数：68）

1 県内客が25%未満 5.9%

2 県内客が25～50% 16.2%

3 県内客が50～75% 29.4%

4 県内客が75%以上 48.5%

質問5 2019年のかけうどん（小）の価格（無回答を除いた回答数：67）

平均値 277 円

中央値 250 円

最安値 150 円

最高値 510 円

II 2020年（令和2年）～2021年（令和3年）の状況について

質問6 2019年と比べた一日の平均来客数の変化（無回答を除いた回答数：68）

1 大きく減った 36.8%

2 減った 38.2%

3 少し減った 17.6%

4 変わらない 7.4%

5 少し増えた 0%

6 増えた 0%

質問7 県内客の比率（無回答を除いた回答数：69）

1 県内客が25%未満 5.8%

2 県内客が25～50% 10.1%

3 県内客が50～75% 15.9%

4 県内客が75%以上 68.1%

質問8 2019年と比べた売上高の変化（無回答を除いた回答数：67）

- | | | |
|---|----------------|--------|
| 1 | 大幅（半分以下）に減少した | 17.9 % |
| 2 | 大きく（約3割程度）減少した | 35.8 % |
| 3 | 少し（1～2割）減少した | 37.3 % |
| 4 | 変わらない | 7.5 % |
| 5 | 増加した。 | 1.5 % |

質問9 この期間中行った対策（複数選択）（無回答を除いた回答数：71）

- | | | |
|----|-----------------------------------|--------|
| 1 | 店を一定期間休業した | 29.6 % |
| 2 | 開店日数を減らした | 19.7 % |
| 3 | 開店時間を短くした | 36.6 % |
| 4 | 開店時刻や閉店時刻を変更した | 29.6 % |
| 5 | 従業員を減らした | 23.9 % |
| 6 | メニューを変更した | 5.6 % |
| 7 | うどんなどの価格を変更した | 36.6 % |
| 8 | 感染症予防策（店内消毒、外気入れ替え、体温計測器、机上パネルなど） | 88.7 % |
| 9 | テイクアウトを始めた（または強化した） | 18.3 % |
| 10 | 店内販売やオンライン販売を始めた（または強化した） | 8.5 % |
| 11 | かがわ安心飲食店認証制度の認証を受けた | 39.4 % |
| 12 | その他の対策 | 5.6 % |
- ・銀行で助成金を利用
 - ・土、日の閉店時間を繰り上げ
 - ・うどん（製品？）販売をやめた

Ⅲ 現在（2022年7月）の状況について

質問10 2019年と比べた一日の平均来客数の変化（無回答を除いた回答数：68）

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 減少したまま | 29.4 % |
| 2 | 少し減少したまま | 47.1 % |
| 3 | 同じくらいに回復した | 20.6 % |
| 4 | 以前より増えた | 2.9 % |

質問11 2019年と比べた県内客比率の変化（無回答を除いた回答数：68）

- | | | |
|---|-------|--------|
| 1 | 減った | 17.6 % |
| 2 | やや減った | 19.1 % |
| 3 | 変わらない | 57.4 % |
| 4 | やや増えた | 5.9 % |
| 5 | 増えた | 0 % |

質問12 2019年と比べた売上高の変化（無回答を除いた回答数：67）

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 減少したまま | 29.9 % |
| 2 | 少し減少したまま | 52.2 % |
| 3 | 同じくらいに回復した | 13.4 % |

4 以前より増えた 4.5 %

質問 13 現在のかけうどん（小）の価格（無回答を除いた回答数：68）

平均値	300 円
中央値	280 円
最安値	150 円
最高値	510 円

質問 14 今後の値上げ（予定）は（無回答を除いた回答数：71）

1 値上げ（予定）する	36.6 %
2 一部値上げ（予定）する	15.5 %
3 検討中	25.4 %
4 当面据え置く	21.1 %

質問 15 自由記入（記載のあった主な内容の要約）

- ・時短協力金が出た夜の店との大きな差を感じる。
- ・国や県が復活支援金や応援制度その要件にほとんど当てはまらず、何ももらっていない。
- ・香川のうどん屋に対する給付金が少なすぎる。
- ・駐車場代が苦しくなっている。
- ・燃料費の値上げにより利益の減少
- ・油代が倍になり、大変苦しい。
- ・国産小麦が豊作なのに、値下がりしないのはおかしい
- ・コロナ感染者が増えると客が減少する状況を何度も味わっている。
- ・年配客の来店がすくなくなった。
- ・コロナが落ち着き出したが、土、日、祝日のファミリー客が減少している。
- ・夜の飲食店と比べれば極端な客足の減少はなかったと思う。
- ・県民割などで県外客は増えているが、マナーが以前より悪くなった。
- ・テイクアウトはうどんに向かない。
- ・安売りすることをしないよう、業界全体で取り組むべき
- ・営業は土、日のみとし、平日はアルバイトに従事して生計を保つ状態。
- ・やめたいと思う

○ アンケートのまとめ（考察に変えて）

- ア. 質問 1 より、創業年数が 20 年未満の比較的新しい店と 30 年以上の古い店はほぼ同じ割合であり、新陳代謝しながらも一定割合の店は地元に基づいて来たことが伺える。
- イ. 質問 2 より、従業員数が 9 人以下の比較的小規模な店が大半を占めている。
- ウ. 質問 3 より、コロナ発生前は、一日の来店客数は 50 人以上 200 人未満の店が 6 割を占めている。
- エ. 質問 4 より、コロナ発生前の県内客の割合は、75%以上とする店が半数であり、県内客主体の店が多いことが伺える。
- オ. 来店客数は、質問 6 より 2020 年～2021 年の行動制限期においては、9 割以上の店が減ったとしている。また、質問 10 より、制限緩和期の 2022 年現在においても回復したとする割合は 2 割であり、

コロナの影響が続いていると思われる。

- カ. 同様に売上高についても、質問9及び質問12より、行動制限期においては9割以上、制限緩和期においても8割強の店が減少していると回答し、回復には程遠い現状が伺える。
- キ. 県内客の割合は、発生前に比べ行動制限期はその割合がやや高まっている一方、制限緩和期では減ったとする回答が目立った（質問7及び質問11）。
- ク. 質問5及び質問13より、かけうどん（小）からみるうどんの価格は、発生前は平均値277円、中央値250円、行動緩和期の現在は平均値300円、中央値280円と発生前に比べ20～30円程度高く、全体的に値上がりしている。（図1参照）
- ケ. 今後の値上げ（予定）について、過半の店が値上げまたは一部値上げをしておき、残りの店についても検討中の回答が多く、売上の減少と製造コストの上昇により値上げせざるをえない実態があると考えられた（質問14）。
- コ. 質問9より、コロナ後、各店では様々な対策を取っている。殆どの店では何らかの感染予防対策を実施している他、かがわ安心飲食店認証制度の認証39.4%、うどんなどの価格の変更36.6%、開店時間の短縮36.6%、一定期間休業29.6%、開店・閉店時刻の変更29.6%などの回答が多かった。
- サ. 自由記入欄には、国や県の支援策が乏しいことや、コストの上昇が経営に影響していること、客層の変化などの記入が複数あり、中にはアルバイトにより生計を維持しているとかやめたいというような悲痛な声も寄せられた。

シ. まとめ

以上、このアンケートを通じ、コロナ禍が県内のうどん店にとって極めて強い逆風となっている実態が明らかになった。

香川県には空海伝承説もさることながら、江戸時代にすでに金比羅参道に並んだうどん店があり、承応の大干ばつと洪水で大飢饉の中、うどんを命を繋いだ歴史もある。そして今や全国にその名を成した讃岐うどん、さらに進めてうどん県と名乗る香川県、その原点には県民がこよなく愛する深いうどん食文化がある。今香川県のうどん食文化を支えているのは正に県内の小さなうどん店である。このうどん店を支えていくためには、各店の創意工夫とともに、行政の支援や県民の応援が求められているのではないかと考えるのである。

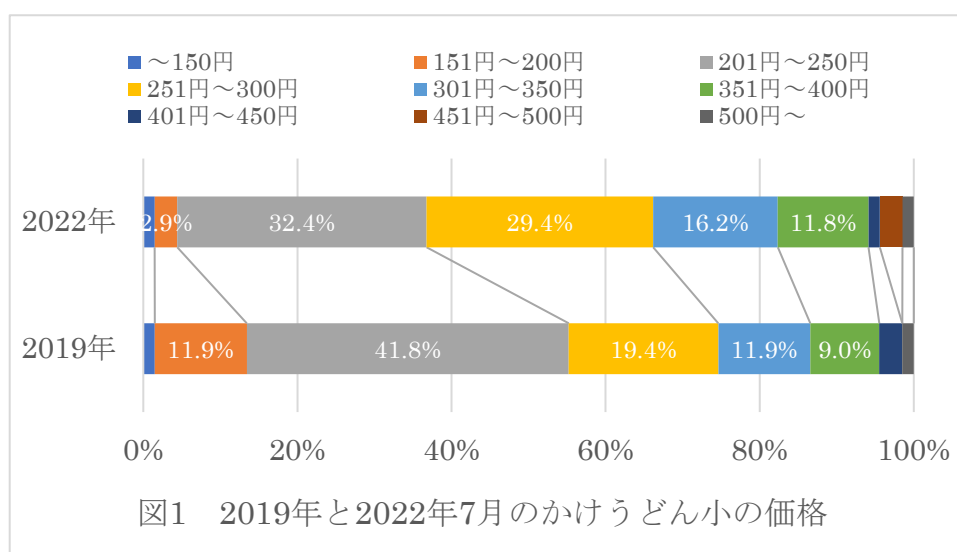


図1 2019年と2022年7月のかけうどん小の価格